

造園連ながの瓦版

日本造園組合連合会 長野県支部

広報委員会

〒386-0027 長野県上田市常盤城4丁目4-23

〈瓦版に寄せて〉

長野県支部長 後藤正直

有澤前支部長から支部長を引き継いで、はや2年を経過しようとしています。役員ならび会員の皆様のあたたかいご支援と、御協力のおかげで、無事になんとかやり切ることが出来ました。

昨年度のスポーツ大会に於いては、競技し慣れたソフトボール・マレットゴルフに代わり、ボーリング大会を開催しました。

真夏の暑いさなか、空調のきいた場内で思う存分力を出せるかと思いきや、空調の故障で汗だらだらで競技したことが思い出の一つであります。

青年部員に関しては、県支部のみならず関東・東京ブロックの行事に参加・協力をしていただき本当にありがとうございました。

事務局長の松井さんには10年に及ぶ職務をしていただきありがとうございました。

これからも運営上分からないことが多々あると思いますが、アドバイスを宜しくお願い申し上げます。

〈第62回技能五輪全国大会を振り返って〉

佐久分会所属、株式会社 Raven の原田穂です。株式会社 Raven 原田穂

第61回に引き続き2年連続で出場させて頂き、2年連続で銀賞を受賞させて頂きました。



今回は2年目ということもあり、課題の重要なポイント、練習の組み立て方、時間配分などが前回に比べて確立されていたのでスムーズに臨むことができました。

課題が3ヶ月前に発表されてからは技能五輪の練習に集中しました。まず、各工程の手順書作成、時間配分を考える所から始まりその後、1ヶ月間は第1モジュールの練習、2ヶ月目からは第2モジュールの練習、3ヶ月目からは大会前日の材料検査、大会1日目、2日目とすべてを通しての本番を想定した通し練習を行っていました。練習をしていく中で時間配分を1分単位で調整を行い、一つの道具を移動するタイミングなどのかなり細かい手順の調整も行っていました。

今回は四面の石積み、小舗石と板石の園路、木と花の植栽、自由垣、芝張り、という課題内容でした。

各ポイントとして石積みの角石は見た目としては当然ですが、寸法を測られたときに自然物を扱っているなので角が少しでもかけて角の出ていない石だと簡単に2～3cmずれてしまうので、角石の選び方や加工、小舗石についても規格品であっても形の良い物、悪い物、大きい物、小さい物があるので、それぞれをどこで使いどこで消費しなければならないのかという見極め。自由竹垣は庭全体のバランスを鑑みて調和のとれるデザインのチョイスをしました。仕上げについて土の見える部分は土に混じっている小石が見えないようにするための工夫と一手間をかけていました。これらの心がけはほんの一部にすぎず、他にも沢山のポイントがあり細部まで気を使い工夫して仕事をしていました。

また、実技だけではなく石積みのデザインの絵を、実際にありそうな石を実際に自身が積む順番で描くという練習もしており、これは実際に石積みをする上での想像力や引き出しの数が増えたと思います。技能五輪に挑む中で初めて触れる仕事も多く、技術的にも知識的にも足りない部分が多いなかで造園連佐久分会の方々をはじめとする多くの技術者の方々に指導して頂き大変良い経験になり、一段とレベルアップできたと自負しております。



技能五輪に2回挑戦させて頂き2年を通して一番大変だったことは、自分の理想とする作品を作り上げたいという気持ちと、時間・点数が決められている競技の中で戦わなければならないというこの二つの線引きをすることが一番大変でした。「細部まで全て完璧に」なんという悠長なことを言っている暇はないくらい忙しいです。この中でできる限り良いものを作るには絶対に妥協しなければならない部分を絞り出す必要があります。また、造園というのは寸法と見た目この二つどちらもかけてはならず、この二つどちらも高い水準を保つというのは至難の業だと感じました。これらが普段の仕事と競技では異なる部分だと感じそのギャップに苦しみました。

前回と今回で2大会連続の銀賞でした。2大会ともに金賞を目標にしていたが一步届かずという結果でした。技能五輪を通して得た技術は確実に自分を一段、二段、三段と上の段階へ引き上げてくれました。満足にいく結果には届きませんでしたがこの結果を客観的に受け止め、この経験と技術が無駄にすることのないよう、これからの仕事や自分の考える庭とは何か、というところに繋げていきたいと思います。

